

平成27年度用 小学校生活科教科書

せいかつ

わくわくせいかつ 上
わくわく いきいき
せいかつ たんけんブック
いきいきせいかつ 下

内容解説資料



未来を切り啓く
子どもたちへ



啓林館

編集の基本方針

“21世紀をよりよく、たくましく生きるために、人としてもつべき英知をみがくことのできる教科書”

1

児童にとって、関心と意欲をもって活動に取り組み、その成果を振り返りながら身の回りの人々と伝え合い、自己理解を深められる教科書

2

教師にとって、活動の流れや支援の方策がわかりやすく、的確な児童理解によって学習活動を導くことができる教科書

3

保護者や身近な大人にとって、児童の学びや成長のようすが分かり、自立への基礎を養うための支援や助言の仕方が分かる教科書

未来を切り啓く 子どもたちへ

今回の改訂では、生活科創設後7代目の教科書として、教育基本法及び学習指導要領の精神に則り、これからの時代に、子どもたち一人一人が自らの学びを成立させ、心豊かに、たくましく生きる力を育てることのできる教科書を目指して編集しました。

まず、低学年児童にふさわしい自律的な行動と協働する態度の基本を身に付けさせるとともに、つねに想像力をはたらかせて学ぶようにうながし、自他の命と安全を大切にしながら、ともにたくましく生きることを励ます教科書を目指しました。

次に、児童が「わくわく」して何度も見たいと思える教科書にしました。加えて、経験を活かして、次に行いたいことを考え、自らの成長に気付きながら「いきいき」と生活できるようになる教科書に仕立てています。そして、思いを素直に表現し、すすんで交流することで、それらを一連の意味ある出来事として捉え、自己理解を一層深められる教科書になることを目指しました。

次に、体験させたい活動を精選して示すとともに、児童の特質を的確に理解し、それらを導く方策と、「幼保小・3年生の縦のつながり」、「同学年他教科の横のつながり」の学習の展望をもつことができる教科書にしました。また、指導や支援のあり方について提示し、生活科の授業のイ

メージがもちやすい教科書にしています。

最後に、「どのようにすれば、児童が、人として、たくましく、かしこく、自立して生きることができるようになるのか」、保護者、あるいは身近な大人が、生活科のねらいや内容を正しく理解でき、家庭や地域での適切な協力の仕方や、児童が安心して過ごせるようになるための助言を指し示す教科書にしました。

子どもが、痛ましい災害、事故等に巻き込まれることなく笑顔で育っていくことが、私ども大人の望みであり、使命です。ぜひ、先生方のみならず保護者の方など、子どもたちに身近な大人の方たちにも手に取っていただき、子どもの学び、成長をどのように支えていけばよいか、ともに考え合える教科書になればと、切に願っております。



編集委員長

寺尾 慎一

福岡教育大学 学長

目次

学力の土台をつくる10のポイント 2

ポイント1	読んで、見て、わかる教科書	2
ポイント2	生活科における学力	4
ポイント3	言語活動の重視	8
ポイント4	学習支援	10
ポイント5	校種間や他教科との連携	12
ポイント6	家庭・地域との連携	14
ポイント7	環境・安全教育・防災・命の教育	16
ポイント8	教育基本法・道徳	20
ポイント9	キャリア教育	21
ポイント10	指導のサポート	22

わくわく せいかつ 上 の紹介 26

いきいき せいかつ 下 の紹介 28

せいかつ たんけんブック 別冊 について 30

年間活動計画案 32

学習内容一覧表 34

観点別特色一覧表 36

教師用指導書について 48



キーワード関連ページ

命の教育	16	特別支援教育	2,10
インクルーシブ教育	10	振り返り	8
活動のスパイラル	5	防災・安全教育	14,16,18
家庭・地域との連携	14	マナー	10,20,21
環境教育	16	めあて	22
気づきの深まり・高まり	4,6	幼児教育	10,12
キャリア教育	21	幼保小の連携・教科横断	12
教育基本法	20	理数教育の充実	12
協働	7	CUD (カラーユニバーサルデザイン)	11
言語能力の育成	8,9		
コミュニティスクール	14		
思考・表現・判断	6,7,8,9		
スタートカリキュラム	10		
成長の実感	7		
他教科とのつながり	12		
伝え合い活動	8		
伝統文化 (愛国心)	20		
道徳 (公共)	19,20		

読んで、見て、わかる教科書

情報量の精選により紙面にメリハリを

編集の基本方針から目指します、「活動の流れの明確化」、「特別支援教育への対応」、「活動が見て取れる紙面」を実現するためには、本編の情報量を精選・見やすくし、低学年の子どもたちに無理なく見て取れるようにする必要があります。旧版（H23～H26 使用）で目指した「読んでわかる教科書」を見直し、「読んで、見て、わかる教科書」として内容を再構成しました。



AB判を利用したダイナミックな単元扉は単元導入に有効です。

上巻 P.50～51



上巻 P.54～55

本編内の情報は小単元タイトル（先生の投げかけ）、本文（子どもの思い）、キャラクターや子ども、先生イラストのセリフ（様々なヒントや例）、カードなど、内容に応じて整理し、効果的なものに絞って掲載しています。

また、各種コーナーを紙面右端に集め、メインとなる活動に集中できるようにしています。



しぜんずかん

自然の
図鑑
4～33歳



いろいろなどんぐり



いろいろな「は」と「み」や「たね」



単に情報を削るのではなく、多様性の確保や詳しい資料の掲載には、巻末資料やたんけんブックを有効活用しています。

上巻 P.124 ~ 125

教科書の全体構成

[上巻, 別冊は1年生入学時に, 下巻は1年生後期(9月)に供給されます。]

わくわく せいかつ 上



「学校と生活」をテーマに学校や遊び場で季節の移ろいと共に活動します。
(本冊子 P.26 参照)

せいかつ たんけんブック 別冊



野外に特化した資料的教科書です。
(本冊子 P.30 参照)

いきいき せいかつ 下



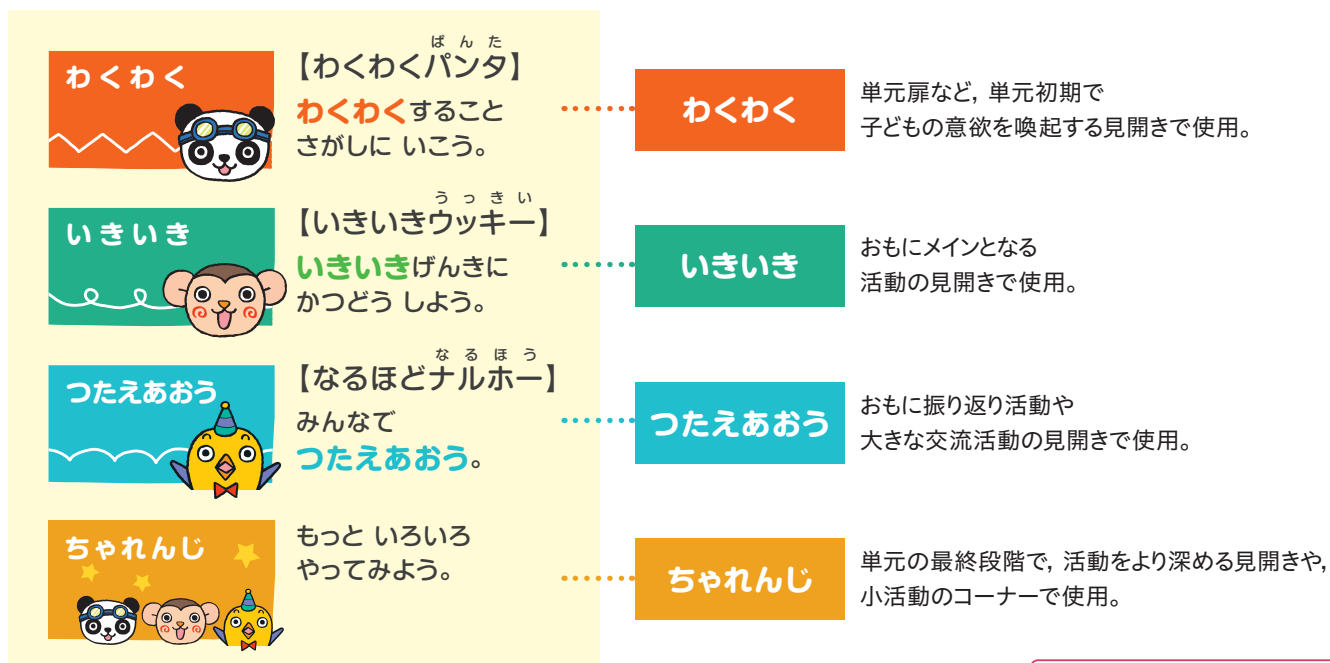
「地域と生活」をテーマに身近な地域で生活する人たちとかかわりを深めていきます。
(本冊子 P.28 参照)

生活科における学力

活動の流れの明確化

子どもの思考が自然に流れるように紙面構成を工夫し、
4ステップで活動やストーリーを見て取りやすくなるように工夫しました。

各単元（活動のまとまり）を、「わくわく」（導入）、「いきいき」（主となる活動）、「つたえあおう」（振り返り交流する場）、「ちゃれんじ」（広がり・深まり）という4段階の展開とし、学習の深まりをわかりやすくするとともに、子どもにも理解できる表現にしました。



4段階のステップで
活動の深まりを演出します！





活動のスパイラル(次につなげるやり取り)

子どもの活動は、「やって終わり」ではありません。
活動の中で「もっとこうしたい」など子どもの思い・願いを次の活動につなげるように、
紙面右下で子ども同士のやり取りを適宜設定しています。



上巻 P.90

上巻 P.89



上巻 P.88 ~ 89

上巻 P.87



上巻 P.86 ~ 87



気付きの質を高める学習活動

子どもの気付きを重視し、それを質的に高めるための
学習活動を豊富に盛り込みました。

上巻 p.88 ~ 89



よく見て見つけた事

見つけた事を
自分なりにたえています

巻末資料（下巻 p.108-111）や別冊（p.4-5,18-21）などの資料ページでも、
子どもの学習活動のヒントになるものを多く掲載しています。



下巻 p.108 ~ 109

下巻 p.110 ~ 111





協働の姿勢, 成長の実感

子どもたちが、自分たちで企画立案や伝え合いをしながら活動を高める様子を紙面に表しました。

加えて、子ども自身が成長を実感できるように、紙面を工夫しています。



下巻 p.24 ~ 25



下巻 p.4 ~ 5



上巻 p.108 ~ 109



下巻 p.88 ~ 89



別冊 p.48 ~ 49

たんけんブック (p.48-49) では、1年生、2年生それぞれの学年末などで振り返りを書きこませることで、成長を実感させ、また、このたんけんブックが「自分の本」として愛着がもてるようにしました。

言語活動の重視

振り返り, 伝え合う活動

伝え合い活動の様子では、
背景となる黒板を利用して観点を示すことで、
子どもにも先生にも活動が見えるように
配慮しています。

子どもたちの生き生きとした
伝え合い活動を多く掲載しています。



上巻 **p.48 ~ 49**

身振り手振りや、
実物提示、グループ内の伝え合いなど、
多様な伝え合い活動を掲載しています。



下巻 **p.16**



下巻 **p.30 ~ 31**





思いを的確に相手に伝えるために 大切なことは巻末資料で

巻末資料では，言語活動の基礎を示しました。
資料扱いにすることで，生活科本来の活動の流れを遮ることなく，
効果的にサポートできるようにしました。



上巻 P.118 ~ 119



上巻 P.120 ~ 121

上巻 P.22 ~ 23

学習支援

子どもにとっての支援と、先生による支援方法の両方に配慮

特別支援教育の観点を重視し、子どもが落ち着いて学習できる教科書にしました。
また、先生の立ち居振る舞いの例も示しました。

上巻 **P.2～11**



幼児教育から小学校教育へ無理なく導入できるように、上巻最初には**スタートカリキュラム**としての単元を設定しました。この単元では、登校から学校の一日の様子、下校へと話が流れるように展開し、また、写真を使わず、必要な情報のみで表現できるイラストで構成しました。

これは、特別支援教育の観点から、写真を用いると背景の情報が多く入ってくること、視線の追いが難しくなることなどを考慮したことと、また、幼児期の絵本に慣れ親しんできたことを意識したものです。



上巻 **P.4～9** は流れがつながるように構成しています。



上巻 **P.54**

車いすを使う子どもや、先生の位置にも配慮。



上巻 P.117



下巻 P.103

ソーシャルスキルトレーニングを示すことで，基本的なマナーを養います。
これは，特別支援のみならず，全ての児童にとっても大切なことと考えています。



多様な児童に配慮

CUD（カラーユニバーサルデザイン）にも配慮し，
専門機関カラーユニバーサルデザイン機構（CUDO）の
協力のもと，多様な色覚特性においても
区別がつくように，配色にもこだわりました。

単元内の4段階マークや，
たんけんブックのツメの色のほか，
デザイン的な配色全てにおいて，
区別可能にしています。



教科書の裏表紙に，
CUDO の認証を証
明するマークを付し
ています。

校種間や他教科との連携

幼保小連携, 他教科とのつながり, 上位学年へのつながりを意識

生活科は低学年児童の基礎的な素養に重要な教科であり,
教科書内でも様々なつながりに配慮しています。

理科

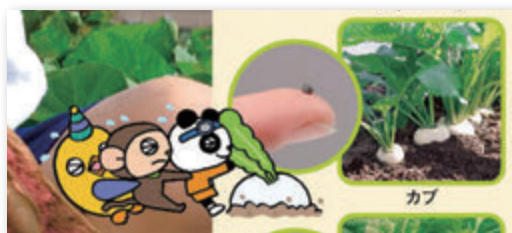


国語



上巻 P.89

下巻 P.15



音楽

上巻 P.10



上巻 P.10



体育

幼児
教育

上巻 P.110~111





下巻 P.40 ~ 41



総合的な学習，
3年生以上の教科学習

生活科

1・2年生の
教科学習

国語 音楽 体育 図工 道徳

算数

幼児教育

図工

上巻 P.89



算数

上巻 P.34



上巻 P.37

上巻 P.44 ~ 45



家庭・地域との連携

家庭, 地域の中で安心して 生活してほしいという思いを教科書に

地域社会で安全に生活できるように,
地域とのつながりに配慮するとともに,
家庭内では自分の存在価値を子ども自身に感じさせるように
家族単元を設定しています。



上巻 P.4 ~5 , 8 ~9 通学路の安全





上巻 P.74～75 家で自分の役割や、自分のことは自分とする（自立）を示し、自己肯定感や自立心を養います。



家族単位では、お手伝い偏重の内容に陥らないように、「家族に喜んでもらいたい」という思いをもって、子ども自身が積極的かつ自発的に家庭の中で自分の役割を果たせるように、展開を工夫しました（上 p.70～79）。



上巻 P.67 日常的な伝え合い



上巻 P.101 おじいちゃん達とも

家族単位から地域へと子どもたちの意識の広がりを演出しました。下巻の町たんけんは主に地域に出での活動となります。その際にも、上巻の意識がつながるように配慮しました。



下巻 P.68 町たんけんでも広がるえがお



上巻 P.79 地域に広がる意識

環境・安全教育・防災・命の

教え込むのではなく、子どもたち自身に意識を

地域社会で安全に生活できるように、地域とのつながりに配慮するとともに、子どもたち自身が日ごろより意識し、考え、たくましく生き抜くことができるように、紙面を工夫しています。

そとでの かつどうの やくそく

たんけん に いこう

たんけんの じゅんび

- うきやすい ふく
- ぼうし
- たんけんバッグ など
- デジタルカメラ など
- ハンカチ
- スウェットティッシュ

のぼろは

- ながそで、ながスポン

やくそく

いきものに やさしく

わう。

パイパイ またね。

もといた ばしょに かえてあげる。

ごみは もちかえる

こんな とき どうしよう

こまった とき どうするか かんがえて おこう。

あぶない

「さわらない」
「ちかづかない」の
やくそくを まもろう。

自然とかかわる中では、環境保全の意識と、子どもたち自身の安全確保が大事になります。

別冊 P.2 ~ 3

かたづけ 大作せん

つかえるものは もういちど つかうよ

リサイクルの ために 分けて 出そう

おちばや 草花も かたづけよう

下巻 P.124

下巻 P.55



生態系への配慮や、資源の有効活用など、基本的な環境意識を押さえています。

通学路の安全確保，子どもの日ごろからの意識の持ち方は最重要課題です。上巻の最初の単元，巻末資料やたんけんブックでしっかりと押さえています。



夏休みなどの長期休暇の過ごし方でも、安全面に配慮しています。



防災・減災と生活科の融合を

日ごろからの意識づけもさることながら、学校の周り探検や町たんけんなどで目にする、不思議なものに興味をもつという、生活科本来の趣旨も大事にしながら紙面を構成しています。



本編では、探検時に目にする多様なものの一例として、防災に関わるものを紹介しています。本編内では安全教育を目的化するのではなく、生活科本来の趣旨も大事にしながら、紙面を構成するように心がけました。



上巻 P.24 ~ 25

下巻 P.73



上巻 P.133

上巻末では屋内も含めた安全を、たんけんブックでは野外に特化した安全を掲載しています。また、家の人と逃げる場所を決めておく書き込みを設け、たんけんブックが非常時でも役立つ本になるようにと考えています。



別冊 P.46 ~ 47



生き物とのふれ合いにも配慮

生き物とのふれ合いには，その温かさが紙面からも伝わるように写真を厳選しました。
また，生き物と接する際，生き物の事を考えて接することができるように，紙面を工夫しました。
生き物とのふれ合いは，道徳心を養うことにも有効です。

上巻 P.66



上巻 P.60～61



下巻 P.114

生き物の気持ちになって，
接し方を考える巻末資料
も設けました。

衛生面にも配慮



下巻 P.56～57

衛生面にも特段の配慮を行いました。例えば，
栽培活動で収穫した生野菜については家庭
での管理のもとで食べるように促し，また，飼
育動物については，環境省により要注意外来
生物に指定され，ザリガニカビ病などの衛生
面の不安のあるアメリカザリガニを掲載せず，
より安全なバッタをメイン素材として位置づけ
ました。

教育基本法・道徳

伝統・文化に触れ,日本人としての精神を

伝統行事や昔遊びに触れ,郷土愛を養うとともに,
やさしい心で相手に応じて接することができるように,紙面構成を配慮しました。



上巻 **P.99**



下巻 **P.74 ~ 75**

長期休暇では伝承遊びや地域行事に触れられるように配慮しました。



下巻 **P.46 ~ 47**



上巻 **P.102 ~ 103**

昔遊びでは,お世話になった人へのお礼も忘れずに。



下巻 **P.4 ~ 5**



上巻 **P.110 ~ 111**



上巻 **P.112 ~ 113**

入学前の幼児の体験入学,新1年生を迎えるための準備,迎える会と,上巻最後から下巻最初にかけて,相手の事を考えながら進められるように丁寧に展開しました。



ポイント9

キャリア教育

多くの人と触れ合うことで、職業観の基礎を

生活科では特定の職業の内容を学ぶというようなキャリア教育ではなく、子どもたちが社会の様々な人と触れ合う中で、その人たちの思いや願いに触れ、自身の考えにつなげていくことが重要と考えています。そのため、職業を学ぶのではなく、身の回りの多様な人と触れ合うように配慮しました。



下巻 P.68 ~ 69

下巻の最後では、職業的なことに限定することなく、将来に向けての意欲・展望を持たせる紙面を設定しています。



下巻 P.98 ~ 99



下巻 P.100

指導のサポート

活動が見て取れる紙面は、
子どものためだけでなく、先生にも有効です

各見開き内においては、小単位タイトルを「先生の投げかけ」、本文をそれに対する「子どもの思い」という形で端的に表現し、どのような活動が行われ、何を「めあて」にするのかをわかりやすくしています。そして、メインとなる活動の様子に集中できるように配慮しました。

小単位タイトル
先生の投げかけ

本文
子どもの思い

キャラクター
留意点や着眼点のヒント





カード

入学当初から段階的に、絵のみ、3行程度、5行程度と文章量を変化させ、発達段階に応じた例となるように配慮しています。また、「書き慣れる」という事も重視し、同じスタイルのカードを多く掲載しています。

資料写真や 各種コーナー

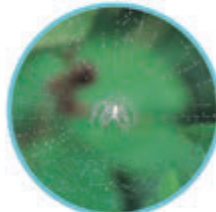
「あぶない」、「こんなときどうしよう」などを紙面右端を基本位置にして配置することで、メインとなる活動紙面をすっきりさせました。



アマガエル



カタツムリ



クモのす

あぶない



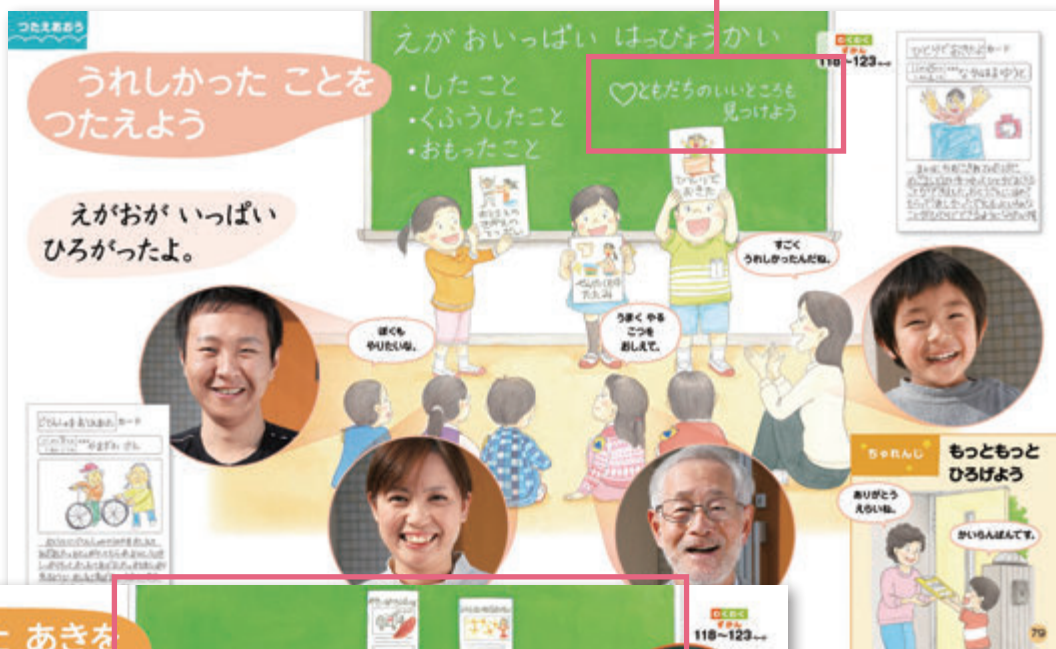
かわに ちかづかない。

黒板,教室づくりの様子から活動のヒントを演出

子どもたちの伝え合い風景の背景にある黒板を利用し、どのような観点で話し合えばよいか、どのようにまとめていけばよいかなど、先生的生活科の演出のヒントになる要素を掲載しました。また、おもちゃ広場などでは、掲示物も含め、教室づくりのヒントとなるように配慮しました。

話し手の観点だけでなく、聞き手の
観点についても示しています。

上巻 P.78 ~ 79



諸感覚による
分類も効果的です。

上巻 P.86 ~ 87



場の設定、演出は生活科の活動において重要なことと考えています。



下巻 P.44 ~ 45



下巻 P.84 ~ 85

上 もくじ

● いちねんせいになつたよ	2
● がっこうとともだち	12
● ひとつぶの たねから	28
● さあ みんなで てかけよう	42
● だいすき なつ	50
● 生きものとなかよし	60
● ひろがれ えがお	70
● たのしもう あき	80
● たのしさ 見つけたよ ふゆ	94
● もう すぐ 2年生	104
わくわくずかん	116



わくわく ずかん 上	
● いえるかな	117
● はなしかた	119
● ききかた	119
● つたえかた	120 121
● きろくの とりかた まとめかた	122 123 124 5...
● しぜんずかん	124 125 126 4~33...
● しぜんあそび	126~129 130 34~39...
● どうぐの つかいかた	130
● わかしの あそび	130 131
● あんさん あんぜん	132 133 134 44~47...



いちねんせいになつたよ

本単元は、スタートカリキュラムの一環となるように、登下校の安全、学校の一日の流れ、友達作りと、学校が安心して過ごせる場所であることに気付くことを目標としています。



がっこうとともだち

本単元では、学校探検を通して、学校にいる人、設備等に気付き、学校が安心できる場所であること、公共のものを大切にするなど基礎を築きます。



ひとつぶのたねから

上巻では花を中心に育てます。栽培開始時期に合わせて単元を配置し、成長過程を一望できるように、工夫しています。また、花が終わった後に、種ができる様子も丁寧に扱い、命のつながりを実感させます。



さあ みんなで てかけよう

春から初夏の遊び場での活動です。自然遊びを行ったり、公共の精神を養ったりします。公園のイラストでは、幼稚園児も遊びに来ているなど、幼保小連携も視野に入れた紙面構成にしています。



だいすき なつ

春からの季節の移ろいを最初に実感できる単元です。家庭探検や、水や土遊びなど、自然体験を中心に展開しています。また、夏休み指導など、最初の長期休暇の前に指導に役立つ単元です。



生きものと なかよし

上巻では、生き物と触れ合うことから命の温かさを感じるように設定しています。扱う動物は、ウサギをメインに、モルモットやダンゴムシなど、実態に応じて取り組んでもらえるように配慮しています。



ひろがれ えがお

今回の家族単元は、お手伝いに偏重することがないように、子どもが「喜んでもらいたい」という思いや願いをもって、自発的に家での役割を果たし、自尊感情を深めることができるように展開を工夫しています。



たのしもう あき

この単元は、春の遊び場での体験もふまえ、自然の変化から季節が秋に変わってきていることに気付かせます。その後、秋の実りなど、季節を存分に楽しむことができるように展開しています。



たのしさ 見つけたよ ふゆ

この単元では、冬の生き物の様子に気付いたり、風などを利用した遊びをしたりなど、野外で元気に遊べるように展開しています。また、伝承遊びなど、地域の人との交流活動も重視した単元です。



もう すぐ 2年生

一年の出来事を振り返り、自身の成長を実感する単元です。振り返りでは、KJ法を用いて整理するなどの工夫も例示しています。また、園児の体験入学を通して、自身の成長に気付かせるようにもしています。



下 もくじ

● わくわくするね 2年生	2
● おいしい 野さいを そだてよう	6
● レッツゴー 町たんけん	20
● つくろう あそぼう くふうしよう	36
● みんな 生きている	50
● もっと 行きたいな 町たんけん	62
● つたえ合おう 町の すてき	78
● これまでの わたし これからの わたし ...	86
い きいき ずかん	101



いきいき ずかん 下

● たんけん名人になろう	102 103	44~
● 簡単や/バスで 出かけよう	104 105	42~
● かかわりを 広げよう ふかめよう	106 107	
● 見つけよう	108	
● しらべよう	109	
● くらべよう	110	4~5 18~21
● たどえて みよう	111	
● 応ろくを まとめて つたえよう	112 113	
● 生きものと ふれ合おう	114	
● 生きものの かい方	115~117	22~31
● そだてた ものて 楽しもう	118 119	
● 作って あそぼう	120~123	
● かたづけ 大作せん	124	
● 編くの つかい方	125	



わくわくするね 2 年生

2年生に進級したての小単元として位置づけています。2年生になってやってみたいことや、新1年生を迎えて、してあげたいことを考えるなど、子ども同士の協働の姿勢を養っていきえるように工夫しています。



おいしい 野さいを そだてよう

下巻では、野菜を栽培することで、収穫の喜びを感じさせる単元になっています。栽培する素材は、一般的なもののだけでなく、地域の特産品に目を向けるなど、地産地消も意識できるようにしています。



レッツゴー 町たんけん

地域を探検する本単元は、春の探検を想定して展開しています。子どもたちが日常でかかわったことのある場所などをもとに探検し、様々なことに気付くことができるように、紙面でも多様性を担保しています。



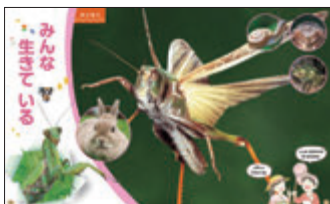
つくろう あそぼう くふうしよう

おもちゃ作り・工夫の必然性を出すため、まずは素材そのもので遊ぶことから始めています。そして、さらに遊びを発展させたいという思いから、見聞きしたことを伝え合い、おもちゃ作りへと展開しています。



みんな 生きている

下巻では、子どもたちが自身が世話ができるように、バッタをメイン素材として展開し、命の変化に気付かせるように紙面をダイナミックに使用しています。また、外来生物の扱いなど、留意したい点にも配慮しています。



もっと 行きたいな 町たんけん

2回目の町たんけんは秋に設定し、季節変化を、自然や人々の生活から気付かせ、春より深くかわりがもてるようにしています。そして、かかわった人のために何かをしたいという思いなど、愛着が深まる様子も示しています。



つたえ合おう 町の すてき

町たんけんを経て気付いた、町の素晴らしいところなどを振り返り、伝え合うことで、より愛着を深め、それを発信していくことを目的とした単元です。町のよさを皆と共有し、協働して発信する展開をしています。



これまでの わたし これからの わたし

下巻の成長単元は、振り返りの起点を固定化せず、現在自分の得意なことが、どうしてできるようになったかなど、振り返りの必然性を意識しました。また、3年生以上への意欲を喚起し、これからの自分に期待をもてるようにしています。





**たんけんバッグに
入ります**

野外での使用に配慮した A5 判サイズにすることで、子どもたちの手にも、もち運びにも使いやすくなりました。



●「ひも」がつけられるように穴あけ加工を施しました。



●穴あけ加工の位置は、ひもを首から下げて教科書を見る際、ひもが邪魔にならないように下側に設けています。



「たんけんブック」は野外に特化した資料的教科書です

教科書上下巻の巻末には、本編で役立つ豊富な資料を掲載し、本編から適宜参照させています。その巻末資料のうち、特に野外で活用したいものを、「たんけんブック」にも収録しました。このとき、単純に同じ資料を載せるのではなく、さらに内容を膨らませたり、実物大にしたり、実地で役に立つものにリライトするなど、たんけんブックが存在する価値を高めました。

わくわく
ずかん
122ページ

たんけん
ブック
5ページ



巻末資料



別冊



本編



別冊 p.2~3



別冊 p.14



1cm 方眼上に
実物大で掲載

クヌギ

2学期制にも
対応できます！

2学期制で学期の切れ目となる9月末～10月初めに活動の区切りがくるように単元を設定、夏休み前後に「ゆとりの時間」を置いて
いますので、2学期制への対応が容易に行えます。（2学期制の詳しい年間活動計画案はCD-ROMに収録しています。）

月	4	5	6	7	8	9
上巻	(春休み) いちねんせいになったよ(4) げんきにがっこうにいけるかな(1) がっこうのいちにちはどうなっているかな(1) あんげんにきをつけてかえられるかな(1) なかよくあそべるかな(11) がっこうとともだち(4) こつこうたんけんしにいこう(2) たんけんしたことをみんなではなそう(2) がっこうのまわりをあるいてみよう(3) ひとつぶのたねから(1学期分)(4) たねをまこう(1) せわをしよう(3)	さあみんなであそびばでたのしよう(5) たのしかったことをつたえよう(3)	だいすきなつ(4) みずやつちであそぼう(1) おきにいりのばしよをおしえよう(2) なつやすみをたのしよう(1) ゆとり(2)	(夏休み)	(夏休み)	ゆとり(3) ひとつぶのたねから(2学期分)(6) みんなにつたえよう(+秋植えの作物)(6)

飼育・栽培活動

小動物に触れる

(以降継続して関わる)

小生物の飼育

花の種まき

開花

(以降継続して世話・観察)

花の種取り・

野菜の苗植え

夏野菜の収穫

(以降継続して世話・観察)

月	4	5	6	7	8	9
下巻	(春休み) わくわくするね2年生(3) わくわくするね2年生(1) 1年生をむかえよう(2) おいしい野さいをそだてよう(1学期分・①)(3)	レッズゴー町たんけん(10) せわをしよう(1) 町にはどんなところがあるのかな(1) 町たんけんのじゅんびをしよう(2) 町たんけんに行こう(3) 町の人にインタビューをしよう(2)	レッズゴー町たんけん(2)(3) みんなであそぼう(3) 自分でおもちゃをつくってみよう(5) どうすればもっと楽しくあそべるかな(2) いろんなあそびができるかな(1) つくろうあそぼうくふうしよう(11) 見つけた町のすてきをつたえ合おう(2)	わくわく夏休み(1) ゆとり(2) しゅうかくをしよう(3) おいしい野さいをそだてよう(1学期分・②)(3) みんながつかう場しよに行ってみよう(2) あつくなつて町はどこがかわったかな(1)	(夏休み)	ゆとり(3) みんな生きてる(9) 生ぎものたんけんに出かけよう(3) かつてみようせわをしよう(3)

【第2学年】1学期…36時間(34+ゆとり2)、2学期…42時間(36+ゆとり6)、3学期…27時間(21+ゆとり6)、合計…105時間(91+ゆとり14)

Timeline of activities from April to December:

- Pet Care (Top Band):**
 - April: 小動物の世話 (Pet care)
 - May: 秋の虫探し (Autumn bug hunting)
 - June to December: (以降継続して世話をする) (Continuing care from June onwards)
- Plant Care (Middle Band):**
 - April: 球根の植え付け (Planting bulbs)
 - May to June: (以降継続して球根の観察) (Continuing bulb observation from May onwards)
 - July: 開花 (Flowering)
- Vegetable Care (Bottom Band):**
 - April: 秋野菜の収穫・調理・冬野菜の種まき (Harvesting autumn vegetables, cooking, and sowing winter vegetable seeds)
 - May to December: (以降継続して冬野菜の世話・観察) (Continuing winter vegetable care and observation from May onwards)
 - December: 冬野菜の収穫 (Harvesting winter vegetables)

[illegible]

	単元名	項目（●は小単元）	学習指導要領の9内容					
			①	②	③	④	⑤	⑥
わくわく せいかつ 上	いちねんせいに なったよ	●げんきに がっこうに いけるかな ●がっこうの いちにちは どう なっているかな ●あんぜんに きを つけて かえれるかな ●なかよく あそべるかな	◎	○	○			
	がっこうと ともだち	●がっこう たんけんに いこう ●こうていも たんけんして みよう ●たんけんした ことを みんなで はなそう ●がっこうの まわりを あるいて みよう	◎	◎		◎	◎	
	ひとつぶの たねから	●たねを まこう ●せわを しよう ●みんなに つたえよう						○
	さあ みんなで てかけよう	●みんなの あそびばて たのしもう ●たのしかった ことを つたえよう ●みずや つちで あそぼう			○	◎	◎	◎
	だいすき なつ	●おきにいりの ばしよを おしえよう (なつやすみを たのしもう)	○				○	◎
	生きものと なかよし	●生きものに あいに いこう ●なかよしを しょうかいしよう	○	◎	○		○	○
	ひろがれ えがお	●いえの 人の えがおを 見つけよう ●どう したら よろこんで もらえるかな ●うれしかった ことを つたえよう		◎				
	たのしもう あき	●なつから かわった ところを 見つけよう ●見つけた あきを しょうかいしよう ●つくって 見つけて たのしもう ●みんなて あきを たのしもう	○		○	○	◎	◎
	たのしさ 見つけたよ ふゆ	●さむくても へいき そとに 出て みよう ●ふゆ休みに たのしもう ●きたかぜと あそぼう ●むかしの あそびを たのしもう	○	◎	○		○	◎
	もう すぐ 2年生	●1年かんを ふりかえろう ●てきる ように なった ことも たくさん あるね ●あたらしい 1年生を むかえよう ●もう すぐ 2年生	○	○	○		◎	
	わくわくするね 2年生	●わくわくするね 2年生 ●1年生を むかえよう	○					
	おいしい 野さいを そだてよう	●どんな 野さいを そだてようかな ●せわを しよう ●しゅうかくを しよう ●みんなに つたえよう			○		○	
	レッツ ゴー 町たんけん	●町には どんな ところが あるのかな ●町たんけんの じゅんびを しよう ●町たんけんに 行こう ●町の 人に インタビューを しよう ●見つけた 町の すてきを つたえ合おう ●あつく なって 町は どこが かわったかな ●みんなが つかう 場しよに 行って みよう			◎	◎	◎	
	つくろう あそぼう くふうしよう	●どんな あそびが てきるかな ●どう すれば もっと 楽しく あそべるかな ●自分で おもちゃを つくって みよう ●みんなて あそぼう (わくわく 夏休み)		◎	◎	○	○	○
いきいき せいかつ 下	みんな 生きて いる	●生きものたんけんに 出かけよう ●かって みよう せわをしよう ●みんなに 見せよう 知らせよう ●秋の 町を たんけんしよう			◎	◎	◎	
	もっと 行きたいな 町たんけん	●もっと いろいろ 話そう ●どんな はっ見が あったかな ●おれいの 気持ちを つたえよう ●さむく なって 町は どこが かわったかな (いきいき 冬休み)			◎	◎	◎	
	つたえ合おう 町の すてき	●町たんけんを ふりかえろう ●町の すてきを まとめよう ●町の すてきを つたえ合おう ●とくいな ことを 見つけよう	○	○	◎	○	◎	○
	これまでの わたし これからの わたし	●自分たんけんを しよう ●自分の ものがたりを 作ろう ●ありがたうを つたえよう ●あしたに むかって すすもう ●大人に なったら	○	◎	○			
			○	○	○			
			○	○	○			
			○	○	○			
			○	○	○			
			○	○	○			
			○	○	○			

学習指導要領の9内容

①学校と生活にかかわる内容 ②家庭と生活にかかわる内容 ③地域と生活にかかわる内容
⑧生活や出来事の交流にかかわる内容 ⑨自分の成長にかかわる内容

				活動内容	目指す子どもの姿
	⑦	⑧	⑨		
				遊ぶ、話す、聞く、歌う	安全に留意して登下校ができる。 友達と仲よく遊ぶ。 学校になじみ、楽しく学校生活を送る。
	○	◎		探検する、話す、聞く、歌う。 身体で表現する。絵やカードを描く。 学校の植物や動物にふれる。 交通に注意しながら、学校の周りに出かける。	学校の人々や生き物、事物にかかわる。 学校になじみ、楽しく学校生活を送る。 見つけたことや気付いたことを知らせ合う。 安全に留意して学校の周りで活動できる。
	◎			花の種をまき、意欲的に育てる。	楽しみながら意欲的に植物を育てる。
	◎				
	◎	○	○		
		◎		公園や野原で遊具や自然物を使って遊ぶ。	地域の人々や自然にかかわり、親しむ。
				水や土、砂で遊ぶ。雨の日に遊ぶ。	夏や梅雨の季節に工夫して楽しく遊ぶ。
	○	○		学校の生きものの世話をする。	生命の連続性に気付く。
	◎				
	○	◎			
			○	楽しかったことや仕事の紹介・実演を行い、さらに家でも実践する。	自分にもできる役割を見つけ、家族の一員として自覚する。 家族を見つめなおし、いっそう好きになる。
		○	○	仕事の紹介・実演を行う。話す、聞く、歌う。身体で表現する。絵やカードを描く。	見つけたことや気付いたことを知らせ合う。
		◎		秋の公園や野原で遊具や自然物を使って遊んだり、地域の人とふれあったりする。	季節を体感し、楽しむ。 自然の中で遊びこんだり、制作活動を行ったりする。 地域の人々や自然と積極的にふれあう。
		○			
		◎			
		○		冬の生きものや植物を探してみる。 寒さに負けず、元気に遊ぶ。 伝統遊びをしたり、おもちゃを作って遊ぶ。	冬の生きものや植物の様子に気づく。 季節の中で元気に遊び、生活する。 伝統遊びを楽しみ、広げる。
		○			
		◎	◎		
		◎	◎	1年間の楽しかったことや自分の成長を振り返る。 新入生を迎える準備をする。春見つけをする。	自分の成長を実感する。上級生になる期待と意欲をもつ。 早春の季節を体感し楽しむ。
		◎	◎		
		○	◎		
		◎	○	進級を喜び、新入生を迎える。	進級した喜びと自覚をもつ。
		◎	○		
	◎				
	◎			野菜を植え、意欲的に育て収穫する。	期待をもって野菜を育て通す。
	◎				
	◎	◎	○		
		○		町探検の計画・準備をし、出かける。 町の人と話し、聞き、記録する。	計画を立て、グループで安全に行動できる。 季節を楽しむ感性を身につける。 町の人々や自然、公共施設に積極的ににかかわる。 季節による人々の生活の変化に気付く。
		○			
		◎			
		○		おもちゃを作って遊ぶ。 作ったおもちゃについて、さらに工夫を加える。	自分なりに工夫しておもちゃを作る。 遊びや装飾など、さらにおもちゃに工夫を加える。
		○			
		◎			
	○	◎	○	夏休みの計画を立てる。(話し合い、製作等)	夏休みを意欲的に元気に過ごし、地域との交流をはかる。
		○		生き物を採取し、育て方を調べ、飼育する。	生き物に親しみ、命あるものへの接し方を知る。
	◎	○			
		◎			
		○		秋の町探検に出かけ、秋の事象を探すことや、町の人々とのかかわりをさらに深めていく。	計画を立て、グループで安全に行動できる。季節と事象の変化に気付く。 町の自然や人々とのかかわり、町を見つめ直す。
		◎			
		○			
		○		いろいろな方法で発表したり、お礼の気持ちを届けたりする。	場に応じたマナーを身につける。
		◎		冬の町の様子を知り、町の人々とのかかわりを深める。	季節による人々の生活の変化に気付く。
		◎	○	冬休みの計画を立てる。(話し合い等)	冬休みを意欲的に元気に過ごし、地域の人たちとの交流をはかる。
		◎		一年間かかってきた町を振り返り、まとめ、伝え合う。	町を見つめ直し、自分なりにまとめ、伝え合う。
		◎			
		◎			
		◎	◎	成長を振り返り、現在の自分を確認する。 できるようになったことを発表し合う。 自分の成長の物語をまとめる。 今までにお世話になった人に対してお礼の気持ちを伝える。 進級への抱負を発表し合う。	成長を実感し、今の自分に自信をもつ。 友達の成長もわかり、互いに喜び合う。 成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつ。 自信と意欲をもって進級する。
		○	◎		
		◎	◎		
		◎	◎		
		○	◎		

④公共物や公共施設の利用にかかわる内容 ⑤季節の変化と生活にかかわる内容 ⑥自然や物を使った遊びにかかわる内容 ⑦動植物の飼育・栽培にかかわる内容

生活科の目標

観 点	啓 林 館 の 特 色
① 学習指導要領に基づく目標と内容的確に盛り込まれ、生活科の基礎・基本の定着が図られているか。	● 上下巻とも、具体的な活動を通して、身近な人々や地域の自然、公共施設などとかかわり、子どもの興味・関心、発達段階に応じて、生活科の目標が達成されるように配慮されている。
② 「直接かかわること」をこれまでに増してより一層重視しているか。	● 活動を通して自然な形で「多様な人々」や「自然」と直接かかわる場面をはじめ、学校・家庭・地域の中で子ども一人ひとりが実際にかかわることのできる「もの・こと」を、学習の対象としてより一層大切にされている。特に、人と自然に対しては、繰り返しかかわっていくことができるように配慮されている。
③ 生活上必要な習慣や技能が身につく、「自立への基礎」が養われるように配慮されているか。	● 11 の具体的な視点の中でも、特に、公共の意識やマナー、情報と交流の手段・活用場面、基本的な生活習慣を意識した時間の感覚など、「自立への基礎」が養われるように十分配慮されている。
④ 気付きの質の高まりに十分目を向けられているか。	● 単元は導入「わくわく」、主たる活動「いきいき」、交流活動「つたえあおう」、広がり・深まり「ちゃれんじ」の4段階で構成され、マークを付して目立たせることで、単元を通して活動が発展し深まっていくことが見て取れるようになっている。 ● 単元内の活動は、基本的に見開き 2p 単位で構成され、それらが単発の活動にならないように、紙面右下を利用して、次の活動につながる子どもたちのやり取りが掲載されている。これにより、前の活動を受けて、次の活動に向けての思いや願いをもって深めていけるようになっている。 ● 直接体験を通した子どもたちの発見や感動は、気付きへとつながる重要な手がかりであり、これらが写真・イラスト・カード・本文・キャラクターのセリフで表現されることで、気付きに目が向くように十分配慮されている。また、教師が子どもたちとともに活動したり共感したりする様子が取り上げられ、子どもたちの気付きが深まる例が随所に示されている。

教科書の構成、編集上の区分

観 点	啓 林 館 の 特 色
① 教科書の構成・単元の配列は適切か。	● 役に立つ資料は、教室で、野外で、家庭でも活用できるように、上・下巻の巻末と別冊「たんけんブック」にまとめられている。別冊は1年入学時に上巻と一緒に供給される。 ● 上・下巻とも季節にそって単元が構成され、単元が進むにつれて活動が広がり、深まっていくように配列されている。
② 子どもの意識、発達段階が考慮されたものになっているか。	● 上巻は主として学校を、下巻は主として地域を舞台とし、学習指導要領の9つの内容が子どもの発達段階を考慮して配列されている。「家庭と生活」にかかわる単元は、低学年児童にとって家庭は学校と密接不離な生活環境という観点から上巻に、「成長」にかかわる単元は、2年間の活動の集大成という観点から、下巻の最後に重点を置いて配置されている（上巻の成長単元は1年間の振り返りの扱いで最後に配置されている）。
③ 単元の内容・分量は適切か。	● 単元名でその内容の概要がわかり、分量は子どもの興味・関心を生かした活動ができるよう、大きくゆったりとしたくりにになっている。
④ 他教科との関連を図ることによって指導の効果が高まるような工夫がみられるか。	● 他教科との関連や合科が図りやすい活動が紹介されている。国語（話すこと、書くこと、読むこと、物語など）、算数（かず、時間）、図工（製作、造形）、体育（ゲーム）、音楽（歌）など、様々な合科的内容が紹介され、活動が広がるように工夫されている。 ● 同学年の横の教科のつながりだけでなく、上位学年の教科、理科（土や水、風やゴムなどのおもちゃ、観察の初歩）、社会、家庭科などとの関連も示され、上位学年での各教科学習時に生活科の経験を振り返ることができるように配慮されている。
⑤ 「総合的な学習の時間」へのつながりが配慮されているか	● 具体的な活動や体験を通して主体的にまた、協働して学習し、自ら考える力の基礎が養われるようになっているので、中学年以降の「総合的な学習の時間」にスムーズにつながっていく。総合的な学習で扱われることが多い教育課題にも十分に配慮されている（後述）。特に上下巻の巻末資料や別冊「せいかつたんけんブック」を参考にして、着眼点のヒントを提示し、調べ→まとめ→発表という一連の活動を行うことは、総合的な学習に直結している。

具 体 例

【校庭の定点観測】	上 p.20-21,54-55,82-83,96-97	【地域の人】	下 p.28-29,66-67
【单元扉を利用した定点観測】	上 p.50-51,80-81,94-95		
【公園】	上 p.44-45,84-85		
【地域の町と自然】	下 p.26-27,32-33,64-65,72-73		
【公共の意識やマナー】	上 p.15,45,85,117-121	下 p.28-29,34-35,102-107	
【情報と交流の手段】	上 p.10-11,15,21,22-23,48-49,66-67,78-79,86-87,90-91,102-103,106-111,117-123		
	下 p.4-5,28-31,40-45,56-57,60-61,68-69,82-85,88-89,106-107,112-113		
【基本的な生活習慣】	上 p.4,6-7(学校の生活),9,59,75,98	下 p.49,77	

- 上下巻目次及び、各单元内の紙面左肩



- 上 p.73,87,89,95,101 など

- 上 p.33,38,44-45,48-49,54-55,64-65,66-67,78-79 下 p.42-43,58-59,63,68-69 など

具 体 例

【資料】 上 p.116-133 下 p.101-125 別冊 全体

【校庭の定点観測】	上 p.20-21,54-55,82-83,96-97	【公園】	上 p.44-45,84-85
【单元扉を利用した定点観測】	上 p.50-51,80-81,94-95	【地域の町と自然】	下 p.26-27,32-33,64-65,72-73

【家庭と生活】	上 p.70-79
【成長】	上 p.104-115 下 p.86-100

【国語との関連】	上 p.10,15,21,26-27,48-49,89,118-123	下 p.15 など	【算数との関連】	上 p.6-7,34,37 など	
【図工との関連】	作品作り全般	【体育との関連】	上 p.11 など	【音楽との関連】	上 p.10 別冊 p.26 など
【道徳との関連】	上 p.15,26-27,45,68-69,103,117,121	下 p.4-5,18-19,28-29,55,86-100,102-105,114 など			
【理科との関連】	自然観察など	上 p.20-21,54-55,64-65,82-83,88-89,96-97,122-123	下 p.58-59,108-111	別冊 p.4-5,18-21 など	
	風やゴムなど	上 p.52-53,100-101,127-128	下 p.36-45,120-123 など		
【社会科との関連】	下 町たんけん全般	【家庭科との関連】	下 p.118-119 など		

【協働の姿勢】	上 p.110-113,120	下 p.4-5,24-25,28,56,82-83 など
【課題解決の方法】	上 p.120-123	下 p.106-113 別冊 p.4-5,18-21 など


内容の選択・扱い

観 点	啓 林 館 の 特 色
① ゆとりをもって活動できるように「重点的・弾力的」な内容構成になっているか。	● 活動例や学習対象が多様に紹介され、その中から、学校や子どもの実態に合わせて自由に選択できるように工夫されている。巻末資料や別冊「たんけんブック」などを活用し、より重点的、弾力的な活動ができるようになっている。また、下巻には季節や天候に左右されない活動「つくろう あそぼう くふうしよう」が設定され、柔軟に活用できるようになっている。
② 活動が広がっていく内容構成になっているか。	● 単元は導入「わくわく」、主たる活動「いきいき」、交流活動「つたえあおう」、広がり・深まり「ちゃれんじ」の4段階で構成され、マークを付して目立たせることで、単元を通して活動が発展し深まっていくことが見て取れるようになっている。 ● 上巻の学校から下巻の地域へ、段階的に活動が広がるように配慮されている。活動を広げるのに効果的な箇所では、「つたえあおう」や「ちゃれんじ」などのマークを付し、地域の人や異学年の子どもたちと交流をはかり、活動がさらに深まり、広がるように配慮されている。 ● 「次はこうしたい」「もっとこうしたい」という思いが紙面右下などで例示され、子どもの活動の連続性・広がりをサポートできるようになっている。 ● 発表形式のみならず、1対1や、グループ内、現地に出て、身振り手振り、実物を持ってなど、多様な伝え合い活動を通して、さらに気付きが深まり、活動に広がりが出るように配慮されている。
③ 「豊かな表現力」が育つようになっているか。	● 子どもたちのいきいきとした身体表現やカード・歌・劇、黒板でポイントを示すなどさまざまな表現方法が紹介され、活動の種類や子どもの個性に応じた豊かな表現力が身につくようになっている。特にカードに記述する表現活動では、1年生の入学当初に用いる、行、枠目などのない自由記述形式のものからはじまり、子どもの発達段階に配慮して掲載されている。カード内の表現も、国語で学習する表現技法などが適切に用いられているものが選択されている。
④ 安全面・衛生面への配慮が十分になされているか。	● 危険防止や、安全面への注意事項は、キャラクターの発言やマークなどで適所で的確に押さえられている。また、地域での子どもたちの安全への配慮から「子ども110番の家」が紹介されている。 ● 生活習慣においては、歯磨き、手洗い、うがいなども促されている。 ● 飼育・栽培においては、活動の前後において手洗いなどの衛生面への注意が促されている。また、要注意外来生物に指定されると同時に、衛生面で不安のあるアメリカザリガニの取り扱いを行っておらず、メイン素材がバツタになっている。
⑤ 発展的な学習内容など個々の児童の理解に応じた指導に対応できるようになっているか。	● 子どもたちの活動をより広げ、深めるものとして発展的な内容が資料に設けられている。生活科の活動内容から無理なく発展するように、本編の活動内容と上位学年の学習内容との関連を配慮しながら設定されている。取り上げた内容は、中学年以降の理科、社会、総合的な学習などに無理なく接続、発展していけるようになっている。 また、巻末、別冊といった豊富な資料により、理解の程度に応じた学習が行いやすくなっている。
⑥ 評価に関して、教科書が適切に利用できるようになっているか。	● 「わくわく」は意欲・態度、「いきいき」は気付きなど、4段階の紙面構成により、評価として重点すべきところが明確になっている。 ● 子どもの作品やキャラクターの発言、カード類において、自分の成長や相互評価の例がとりあげられ、評価につながるように配慮されている。 ● 子ども同士がお互いのよいところを共感したり、教師の言葉や保護者の手紙などで賞賛したりして、認めてあげられるように配慮されている。
⑦ 生活科に必要な活動を引き出す資料が掲載されているか。	● 上下巻の巻末や別冊「たんけんブック」に子どもの興味関心に応じて選択できるように、質、量とも必要十分な資料が掲載されている。本編からは、まず各巻の巻末資料を参照するようになっており、そこからさらに野外で役に立つものに関して、別冊を参照するようになっている。ほかにも夏休み、冬休みなど、活動の流れに応じて効果的に使える資料を配置されている。
⑧ 身近な素材を使って活動できるようになっているか。	● おもちゃなどの製作活動では、多くの身近な素材を使用して多様な活動に取り組めるようになっている。 ● 自然活動に際しては、動植物を採り過ぎないように配慮されると共に、活動後は、素材を無駄にしないようにし、環境への意識も高めるようになっている。



具 体 例

上巻末資料 p.116-133, 下巻末資料 p.101-125

別冊「たんけんブック」全体


「つくろう あそぼう くふうしよう」 p.36-45

【4段階のマーク】 上下巻目次及び、各単元内の紙面左肩

【活動の広がり】 p.24-25,79,91  p.31,61,67,85 など


【次につなげる思い】 p.73,87,89,95,101 など


【伝え合う活動】 p.22-23,38-39,48-49,54-55,66-67,78-79,90-91,102-103



 p.16-17,30-31,42-45,60-61,68-71,84-85,86-100 など






【表現方法】 p.22-23,48-49,66-67,78-79  p.30-31,57,60-61,68-69,82-85,92-93,112-113 など

【カードの発達】 p.10,21,31,34,38-39,101,108-109,122(かき方)

 p.5,80-81,94-95 など


【安全面】 p.8-9,24-25,47,55,59,63,85,129,132-133  p.25,43,49,53,102,125 **別冊** p.2-3,44-47 など


【衛生面・生活習慣】 p.4,31,63,75,98  p.9,50-61,77,114-117 など

【飼育素材】 p.50-61

 p.118-119,124 **別冊** p.17



【4段階のマーク】 各単元内の紙面左肩


 p.66-67,78-79,109

 p.12,88-89,90-91,92-93 など

上巻末資料 p.116-133, 下巻末資料 p.101-125

別冊「たんけんブック」全体

【夏休み・冬休み】 p.58-59,98-99  p.46-49,74-77

【自然物を使った遊び】 p.44-49,52-53,88-91,100-101,126-128

別冊 p.34-39 など

【おもちゃ】 p.36-45,120-123

【自然環境への配慮】 p.55,61,124 など



下巻 p.40 ~ 41

様々な身近な素材を利用して、多様なおもちゃづくりができるようになっている。



下巻 p.124

活動の際にでた素材の切れ端などは捨てずにとっておくこと、落ち葉なども利用することを喚起されている。

表記・表現①

観 点

啓 林 館 の 特 色

- ① 表記・表現は親しみやすく、子どもの意識にそっているか。

- 単元名や小単元名の他、本文中の言葉については、いずれも子どもが行う活動や体験への重要な刺激となるようにと位置づけられており、以下のように設定されている。

(単元名)

その単元で扱う事象や内容の本質的な特徴を、子どもの興味を引く表現で示し、大きなまとまりの中で多様な活動が可能になるように工夫されている。

(小単元名)

その小単元の活動内容を教師の投げかけの言葉で表し、活動へ導入しやすくなっている。

(本文)

小単元名を受けた子どもの思いや願いにそった文章で、子どもに気付いてほしいポイントや、意欲・驚き・喜びを表現するとともに、気付きの広がり・深まりを促す工夫がされている。

(セリフ)

本文を補い、活動への示唆や子どものつぶやき・疑問の声などが「ふきだし」で示されている。特に、紙面右下においては、次の活動につなげるための子どもたちのやり取りを示し、活動が単発的にならず、高めていけるような扱いになっている。

キャラクターのセリフについては、留意点と共に、気付きのヒントとなる着眼点が示されている。

- ② 漢字、カタカナの使い方は適切か。

- 上巻の最初よりカタカナをふりがなをつけて使用している。漢字は上巻後半（配当時期9月以降想定）から1年での配当漢字をふりがなつきで使用している。下巻に入ると、2年での配当漢字をふりがなつきで使用している。

別冊「たんけんブック」は、基本的に上巻後半の扱いと同じで、1年配当漢字をふりがなつきで使用しているが、1年生1学期で参照する資料は、上巻前半と同じ扱いになっている。

- ③ デザイン、レイアウトは適切か。

- 1つの活動が1見開きを基本に構成されていて、活動の内容がとらえやすくなっている。基本的なストーリーは低学年児童の教科書にふさわしい程度の文字情報量と動きのある絵柄・活動風景を切り取った写真から見てとりやすく、それらがすっきりとレイアウトされている。また、巻末資料により活動を広げ、深めることができる部分は適宜マークをつけ、巻末資料を参照するようにしている。

- ④ 具体的な活動を引き出すように、写真が取り入れられているか。

- 写真には、子どもたちのいきいきとした表情が表れており、教科書を見る子どもの想像力を刺激して、共感を呼ぶとともに、実際に活動する際の資料としても十分活用できるようになっている。興味・関心を喚起するダイナミックな写真と、緻密な資料としての写真とをメリハリをつけて、適切に配置されている。写真のトリミングも工夫され、子どもたちの興味を引きつけ、具体的な活動につながるようになっている。

- ⑤ 具体的な活動を引き出すように、イラストが取り入れられているか。

- 現代の子どもの感性にあう、表情豊かで親しみやすく魅力的なイラストを使用している。イラストならではのやわらかな表現で、より共感が得られ、具体的な活動の様子が見えるようにしている。

- 本筋の活動に付随する約束事や注意事項などは、紙面右端に「こんなとき どうしよう」や「あぶない」等を利用してまとめられており、本活動とは一線を画して参照しやすくなっている。これらコーナーでは、小さいコマの中でも状況がつかみやすく、視認性を高めた別なタッチのイラストで構成されている。

- 上巻最初の単元では、イラストを用いることで写真とは異なり、必要な情報のみを都合よく配置することができ、入学したての子どもたちにとって、スタートカリキュラムや特別支援教育の観点からも効果が高くなっている。

具 体 例

単元扉の例



上巻 **p.28 ~ 29**

全単元に同じデザインの単元扉を配置している。

小単元名・本文の例



上巻 **p.44 ~ 45**

どんな活動を行うかを小単元名で示し、着眼点やめあてなどを本文で示すようにしている。

紙面右下のセリフ例 **上** p.87,89,95,101 など



上巻 **p.87**

次の活動につなげるやり取りを示している。

上巻前半：カタカナ（ふりがな付き）、漢字不使用

上巻後半、別冊：1年配当漢字（ふりがな付き）

下巻全般：2年配当漢字（ふりがな付き）

【ストーリー展開の例】 **下** p.36-45（おもちゃ単元）

【巻末資料参照の例】 **上** p.9 右肩など



上巻 **p.64 ~ 65**

ダイナミックな写真を使用している。

下巻 **p.86 ~ 87**

記念撮影的ではなく、活動に打ち込みながら得られる笑顔が重視されている。



上巻 **p.124 ~ 125**

資料写真は質の高いものが豊富に掲載され、ダイナミックなページとの違いもあり、紙面にメリハリがある。



上巻 **p.88 ~ 89**



下巻 **p.25**

表記・表現②

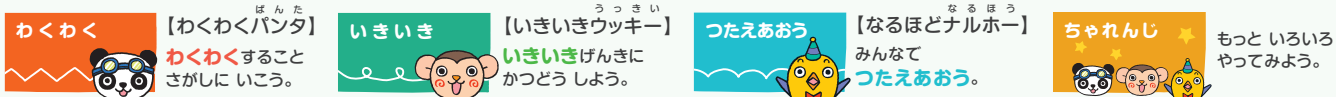
観 点	啓 林 館 の 特 色
⑥キャラクターなどにより子どもたちの活動を支援する工夫がされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●全巻共通の3体のかわいらしく魅力的なキャラクターを登場させ、子どもと一緒に楽しく活動・体験する友達のような扱いで設定されている。安全やマナーを呼びかけたり、気付きを促したり、疑問をなげかけたりなど、子どもの活動を適切に支援している。 ●4段階の紙面構成において、「わくわく」では「わくわくパンタ」が、「いきいき」では「いきいきウッキー」が、「つたえあおう」では「なるほどナルホー」、広がっていく「ちゃれんじ」では全員がセリフを述べる扱いになっており、単元構成での役割も明確になっていて安心して教科書を見ることができるようになっている。
⑦折り込みなどの、子どもの活動意欲を喚起する工夫がされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●紙面がダイナミックに広がることで内容を効果的に捉えさせることができる場所は、折り込みが設けられ、子どもの関心をより高めるようになっている。上巻では学校探検に出る際のわくわく感を高め、下巻では、栽培単元に折り込みを設け、野菜やサツマイモのいきいきとした収穫場面をダイナミックに見せている。
⑧学習活動をイメージさせ、活動に誘い込む表紙であるか。	<ul style="list-style-type: none"> ●上巻は「わくわくせいかつ」、上巻別冊は「たんけんブック」、下巻は「いきいきせいかつ」とし、より楽しく子どもたちの活動を喚起するものになっている。上下巻は子どもの生き生きとしたさわやかな写真が用いられ、本文ページに期待感をもたせて学習内容に誘うようなデザインになっている。別冊は、野外で使える資料が意識され、内容物で構成されている。また、白を基調とし、草原等の野外で落としても、視認性よく見つけやすくなるように工夫されている。

教科書の構成, 編集上の区分

観 点	啓 林 館 の 特 色
①人権や福祉に対する配慮は適切で、社会的弱者への思いやりを育てるようになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●幼児や高齢者、障害をもつ人々ともこたわりなくかかわることができ、誰もが住みやすいバリアフリーの社会をめざそうとする意識が自然に芽生えるように工夫されている。また、イラストでは、クラスメートに車椅子の子どもが設定され、ともにいきいきと活動している様子が紹介されている。
②家庭環境を考慮した活動内容となっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●家族単元などでは、家族構成が多様化しているという実態にも十分に配慮されつつ、家族の温かさを実感できる工夫がなされている。
③生命を慈しむ心を育て、生命の連続性への気づきに発展する配慮がされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●小動物の飼育や植物栽培を通して、生命の誕生や命のあたたかさなどに触れ、生命の大切さや慈しむ心を育てるとともに、生命の連続性に気づくように配慮されている。また、資料では、生き物のいろいろな姿や飼育方法が示され、気付きがサポートされるようになっている。
④男女平等への配慮はなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●イラスト、写真などの男女比が同比率になっており、さらに性別によって服装の色や種類が固定的にならないように配慮されている。また、家庭での役割や社会進出の面で、男女に差が生じないようにしている。
⑤児童の色覚特性への配慮がされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●全編を通して・色覚の個人差を問わず判別できるように、カラーユニバーサルデザインの観点から、色のみで紙面の内容の判別をしないように配慮されている。各巻の裏表紙にそれを証明するマークもついている。
⑥宗教への配慮はなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●祭事や地域の行事は、子どもの活動と関連するように扱われ、特定の宗教性が強調されないように配慮されている。

具 体 例

(児童と一緒に活動・体験する楽しいキャラクターたち)



上 p.14-19



上巻 P.14 ~ 15



上巻 P.16 ~ 19

下 p.10-15



下巻 P.10 ~ 11



下巻 P.12 ~ 15

各巻表紙



具 体 例

上 p.4-5,10,14,21,25,45,48,54,83,84-85,90,97,100 下 p.32,34,44,82-83,85,88,102,104-105 など

上 p.70-79

上 p.28-41,60-69 下 p.6-19,50-61,114-117 別冊 p.18-33 など

上 p.4,11 など

単元のテーマ色の配色と、「わくわく」「いきいき」「つたえあおう」「ちゃれんじ」の4段階のマーク、巻末資料のテーマ色の配色、別冊の各資料のまとまりの配色、シンボルマーク、写真や吹き出しの囲みの色など

下 p.27,33,46-47,49,65,73,74-75,76-77



下巻 P.65



下巻 P.74 ~ 75

社会の要請への対応

観 点

啓 林 館 の 特 色

① 国際理解へとつながる配慮がなされているか。

● 上下巻ともクラスメートに外国人の子どもを設定し、ともにいきいきと活動する姿が紹介されている。また、自国の文化や異なる国の文化などに目を向けさせ、お互いの文化を認め合うことで、グローバルな感性が育つように学習活動が工夫されている。

② さまざまな情報手段の活用が示唆されているか。

● 情報の発信者、受信者、利用者としての視点で、低学年でも可能なさまざまな情報手段の活用を示唆している（インタビュー、図鑑で調べる、電話、手紙、パソコン、デジカメ、インターネット、プロジェクター、掲示板の活用 etc.）。特に巻末資料において、「しらべかた」「きろくのまとめかた」「つたえかた」など、情報の活用の仕方を一連のものとして見ることができるようになっている。

③ 環境教育の重要性が認識され、適切に教材化されているか。

● 身近な自然にひたって遊ぶことをはじめ、学校内のビオトープ、遊んだ落ち葉での堆肥作り、リサイクルなど、低学年の子どもの興味・関心からみても無理のない活動や資料を通して、環境に目を向けさせ、自然の美しさ、ぬくもり、すばらしさを実感し、これらを大切にすることを育つように配慮されている。

また、生き物さがしでは生き物を乱獲しないように注意が促されている。このほか、飼育した生き物をむやみに自然界に放すことがないように配慮されている。

● 飼育においては、外来生物であると同時に、衛生面で不安のあるアメリカザリガニの取り扱いを行っておらず、メイン素材がバットになっている。

④ 子どもたちが健康に生活できるようになることが配慮されているか。

● 基本的な生活習慣が身につく、健康に生活ができるようになるためのきっかけづくりとなる内容が掲載されている。

● 飼育・栽培においては、活動の前後において手洗いなどの衛生面への注意が促されている。

具体例

上 p.10,100-101,103 下 p.5,45,88 など

上 p.90,118-123 下 p.8-9,28,34,40-41,56-57,77,82-83,84-85,106-107,112-113 別冊 p.2-5 など



上巻 p.120



下巻 p.56 ~ 57

別冊 p.5



上 p.20-21,44-47,54-55,82-85,96-97,126-128 下 p.52-61,124 別冊 p.3,32-33,34-39 など



下巻 p.61

飼育した生物をその後どうするか、考える場面が設定されている。



下巻 p.124

遊んだ後にゴミの山…では活動をちゃんと行えたとはいえないため、積極的に再利用できるよう、その整理、再利用方法を示している。

【基本的な生活習慣】 上 p.4,59,75,98 下 p.49,77 など



上巻 p.59



上巻 p.75

段階を追って一人でできることが増え、自分の成長に気付くことができるように配慮されている。

上巻 p.4



下巻 p.57

【衛生面の配慮】 上 p.31,53,63 下 p.9,55,57 など

地域性

観 点	啓 林 館 の 特 色
① 学校や地域の独自性を生かした活動が選択できるようになっているか。	● 活動目標が同じであっても、活動内容や活動の場は学校や地域によって異なることが考慮され、可能な限り多様な活動内容や活動の場が例示され、実態に合わせて選択できるようになっている。
② 長期休暇や休日に対して柔軟な配慮がなされているか。	● 上下巻とも学期ごとに時間的なゆとりがあり、「夏休み・冬休み」などが設けられている。ここでは、家庭や地域に帰ってからでも、自主的に活動を発展させることができるような例が多く紹介され、地域でも子どもが力をつけていけるように工夫されている。また、町探検において、子どもたちが土日に利用する公共施設とのかかわりが紹介されている。
③ 2 学期制に対応しているか。	● 9 月末 -10 月初旬に単元の区切りをおき、2 学期制にも対応できるよう配慮されている。
④ 家庭や地域との連携が深まり、地域への愛着が深まるような配慮がなされているか。	● 上下巻の裏表紙に、保護者へのメッセージが入っており、家庭においても生活科を意識し、子どもの成長を見守ってもらいたい旨が示されている。 ● 学校での出来事を家庭で伝える場面が紹介されるなど、児童と同時に保護者にも意識してもらいたい紙面になっている。特に、上巻最初の単元は、入学当初のガイダンス的な意味合いも持ち合わせ、保護者に見てもらいたい内容構成になっている。 ● 子どもたちの生活を支えてくれている人々との交流が示され、愛着がもてるように配慮されている。

印刷・製本

観 点	啓 林 館 の 特 色
① 鮮明な印刷になっているか。	● イラストなど紙面全体は柔らかな雰囲気でありながら、資料となる写真は鮮明に再現できている。また、子どもの写真については、とても健康的な発色になっている。ほか、環境への負荷が小さい植物油インキが使用されている。
② 製本は堅牢か。	● 製本は、「あじろ無線とじ」で強力な接着止めを行って堅牢にされることにより、AB判というサイズながら、紙面を開きやすく広く丈夫に確保されている。 ● 別冊「たんけんブック」は屋外での使用が考慮され、子どもの2年間の扱いにも耐えうる堅牢さがある。また、別冊には穴開け加工が施され、ひもを通すなどの利用にも対応できるように配慮されている。 ● 氏名記入欄は裏表紙に設けられ、記入しやすいようにコート加工が外されている。
③ 印刷効果がよく、丈夫な紙を使用しているか。	● 発色など印刷効果がよく、しかも耐久性のある紙が使用されている。また、環境に配慮し、資源の有効活用の立場から、再生紙が使用されている。

平成27年度用

わくわく せいかつ **上**

せいかつ たんけんブック **別冊**

いきいき せいかつ **下**

指導書

生活科が初めての先生にも
使いやすく
リニューアルしました!



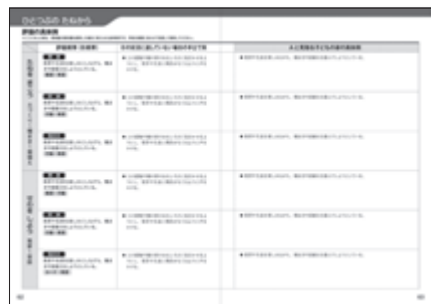
上下巻 要点編

日々の生活科活動のために



上下巻 研究編

授業・教材研究のために



※「評価の具体例」を大幅に改定しています。

第1部

総説

生活科の基本から最新の評価まで。
生活科教育のガイダンスです。

第2部

詳説

教科書各巻に対応した詳説の構成

上巻

要点編
研究編
カード集
デジタルデータ集

●要点編 教科書の朱刷り
●研究編 指導計画や評価などの詳しい解説
●カード集 授業にすぐに使えるカードの雛形
●デジタルデータ集 カード集のデータ (Microsoft word 形式)
全単元評価資料 (Microsoft word 形式)
教科書画面データ (拡大表示機能, ムービー,
サウンド, 写真など役に立つ機能・資料を多数
収録しています。)

下巻

要点編
研究編
カード集
デジタルデータ集

別冊

要点編
資料編

●要点編 教科書の朱刷り
●資料編 教科書の事例の詳しい解説や別例など

たんけんブック

要点編



上下巻 カード集

たんけんブック

資料編



デジタルデータ集の内容

- ①カード集（ワード形式）
- ②全単元評価資料（ワード形式）
- ③年間活動計画（エクセル形式）
- ④デジタル教科書（電子黒板対応）

指導書上巻：わくわく せいかつ上，たんけんブックの全ページの紙面データ

指導書下巻：いきいき せいかつ下，たんけんブックの全ページの紙面データ



機能の紹介

【拡大表示】

【各種コンテンツ】

サウンド、ムービー、画像、インターネットリンク、2 ページ比較、クイズなど

【紙面編集ツール】

ペン、図形描画、スタンプ、画像貼り込みなど

【授業に役立つ“どうぐばこ”】

ストップウォッチ、操作時計ツール、ホワイトボード、印刷、保存など



②紙面に表示されるコンテンツボタンを押すと…

①コンテンツを「ON」にして…



③紙面をサポートする様々なデジタルコンテンツが表示・再生されます。

※画面は開発中のものです。機能を含め若干変更になる場合があります。

わくわくせいかつ上

保護者の方へ

生活科では、身近な人々・社会・自然とのかかわる活動を通して、子どもたちが自分のことや生活について考え、生活する上で必要な習慣や技能を身につけることを目指しています。

わくわく せいかつ上巻では、子どもたちが楽しく、安心して学校に通えるようになることからはじめ、自分のことは自分でできるようになることを目標としています。また、安全な登下校ができるようにするとともに、遊び場などで楽しく遊びながら、自然の不思議や公共物とのかわりかたを学んだり、栽培や飼育を通して命の大切さに気付いたりすることも目指しています。

生活習慣を身につけさせるには、家庭の協力が不可欠です。ぜひ、保護者の方も一緒に教科書をご活用いただき、子どもたちが成長していくようすを感じ、見守ってください。

いきいきせいかつ下

保護者の方へ

生活科では、身近な人々・社会・自然とのかかわる活動を通して、子どもたちが自分のことや生活について考え、生活する上で必要な習慣や技能を身につけることを目指しています。

いきいき せいかつ下巻では、子どもたちが自分たちの住んでいる町の様子を知り、そこで生活している人々との交流を深めながら、地域を愛するようになることを目標としています。

また、栽培や飼育では、上巻での経験をふまえ、思いや願いをより強くもって主体的に取り組めることを目指しています。

ぜひとも、上巻に引き続き、保護者の方も一緒に教科書をご活用いただき、生活科の学習を通して子どもたちが成長していくようすを感じ、見守ってください。

■ 著作者

寺尾 慎一 福岡教育大学学長
阿部 治 立教大学教授
天野 正輝 京都大学名誉教授
往古 靖子 東京都板橋区立中根橋小学校
主幹教諭
大野 晏旦 元東京都台東区立
田原小学校校長
太町 智 浜松学院大学短期大学部講師
佐藤 真 兵庫教育大学教授
澤田 妙子 元玉川大学准教授

島 善信 大阪教育大学特任教授
杉澤 学 奈良女子大学附属小学校教諭
田中 博之 早稲田大学教授
中野 真志 愛知教育大学教授
野口 一夫 山村学園短期大学学長
藤本 勇二 武庫川女子大学講師
益地 勝志 元福岡教育大学講師
溝邊 和成 兵庫教育大学教授
株式会社新興出版社啓林館編集部

《特別支援教育に関する監修》

柘植 雅義 国立特別支援教育総合研究所
上席総括研究員
阿久澤 栄 玉川大学教授
《言語力に関する監修》
澤本 和子 日本女子大学教授
《防災・減災に関する監修》
河田 恵昭 関西大学教授・
社会安全研究センター長
人と防災未来センター長

■ デザイン

京田クリエーション(日吉和夫 松元忠隆)

内容解説資料 付録CDについて



●付録 CD-ROM にデジタル教科書の機能の紹介を収録しています。

【start.html】をクリックしてご覧ください。

●以下の各ファイルも CD-ROM に収録しています。

- ・学習指導要領との関連
- ・観点別特色一覧表
- ・年間活動計画

(動作環境)

【OS】 WindowsXP/Vista/7/8 (デスクトップモード)

【ディスプレイ】 WXGA(1280×800) 以上、

【ブラウザ】 Microsoft Internet Explorer8 以上

【実行環境】 FlashPlayer 10.3 以上

啓林館

本社 〒543-0052 大阪市天王寺区大道4丁目3番25号 Tel.06-6779-1531
札幌支社 〒003-0005 札幌市白石区東札幌5条2-6-1 Tel.011-842-8595
東京支社 〒113-0023 東京都文京区向丘2丁目3番10号 Tel.03-3814-2151
東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-4-34 双栄ビル2階 Tel.052-935-2585
広島支社 〒732-0052 広島市東区光町1-7-11 広島CDビル5階 Tel.082-261-7246
九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院1丁目5番6号 Tel.092-725-6677

<http://www.shinko-keirin.co.jp>

平成27年度用 内容解説資料

